### 國學院大學学術情報リポジトリ

### 中古和文の「命令形カシ」

| メタデータ | 言語: Japanese                      |
|-------|-----------------------------------|
|       | 出版者:                              |
|       | 公開日: 2023-02-05                   |
|       | キーワード (Ja):                       |
|       | キーワード (En):                       |
|       | 作成者: 富岡, 宏太, Tomioka, Kota        |
|       | メールアドレス:                          |
|       | 所属:                               |
| URL   | https://doi.org/10.57529/00000179 |

# 中古和文の「命令形カシ」

## 富岡宏太

### 本稿の目的

(以下、「命令形カシ」)が多数見られる。(中古和文には、次のように、命令形に助詞カシが下接した例)

(1)「わざとあめるを、早うものせよかし」

が、その詳細が明らかになっているわけではない。そこで本稿「命令形カシ」については、いくつかの指摘がすでに見られる

〈源氏物語、花宴、二七七・一〉

では、「命令形カシ」の用法を精査したうえで、その意味を明

らかにすることを目的とする。

資料と例数

め、命令形単独の例(以下、「命令形」と呼ぶ)も適宜挙げるの例のみを検討し、韻文の例は後で触れる。なお、比較のた性があるうえ、韻文の例数は僅少である。そこでまずは、散文性があるうえ、韻文の例数は僅少である。そこでまずは、散文記、堤中納言物語)である。韻文と散文とで傾向が異なる可能語、落窪物語、枕草子、源氏物語、和泉式部日記、紫式部日語、落窪物語、枕草子、源氏物語、和泉式部日記、楽式部日

筆者が付した。

みを対象とする が、例数が極めて多いため、 源氏物語の散文部分の六二三例の

まず、「命令形カシ」の例数を[表一]に挙げる。

表一〕作品ごとの散文の「命令形カシ」の例数

命令形 ルカシ 竹取 1 土左 1 平中 2 落窪 19 枕 18 源氏 65 和泉 5 1 紫 4 堤 116 計

表記は私に改めた。 》は心内文であることを、( ) は補足説明を示すものとし 引用文中の は発話者と対話者とを、

# 三 「命令形」と「命令形カシ」の用法の広さ

まずは、「命令形カシ」の用法の広さを検討する。「命令形

による表現を、①発話者が事態の実現を望むか、②対話者と行

為者とが同一人物か、という二点から分類すると、〈要求〉、 、放任〉では、行為者の有無は重要でないからである。以下に **〈希求〉、〈放任〉の三種になる。理論的には四種に分かれるが** 

【〈要求〉:事態実現の望み有り。 対話者が存在し、 かつ、

例を挙げる。

行為者と一致する。】

②〔童→惟光〕「これ(=扇)に置きて(源氏ニ)まるら せよ、枝もなさけなげなめる花を」

発話者の童は「花を届けること」を望み、 〈源氏物語、夕顔、一〇二・六〉 対話者の惟光が行為

者でもある。これが〈要求〉の例である。 【〈希求〉: 事態実現の望み有り。対話者が存在しないか、

(3)……、〔薫〕《(大君ハ) ながらへよ》……。 行為者と一致しない。】

の場合、対話者と行為者とが同一人物になることはありえな

発話者の薫は、大君の病の回復を望むが、対話者がいない。こ

源氏物語、総角、一六四七・

四

い。これが〈希求〉の例である。 【〈放任〉: 事態実現の望み無し。対話者の有無は関係しな

°, ⑷〔左馬頭→女〕「……。限りと思はば、かくわりなき~ の疑ひはせよ。……」 〈源氏物語、帚木、四九・一三〉

と」を望んでいない。「これで最後と思うのなら疑っても構わ 発話者の左馬頭は、対話者、 かつ行為者の女に「疑われるこ

ない」というのみである。これが〈放任〉である。

るのをやめてしまえばよいと述べるのみである。

る。 一方の「命令形カシ」にも、以上三種、すべての例が見られ

【〈要求〉】

たまへかし」 〈源氏物語、須磨、四一二・五〉5〔源氏→紫の上〕「……。なほすこし出でて見だに送り

発話者の源氏は、対話者の紫の上に対し、「もう少し外に出て

見送ること」を望む。

⑥〔大宮〕《故大臣のいましばしだにものしたまへかし》

発話者の大宮は、左大臣の生存を望むが、心内文で、対話者は

【〈放任〉】

いない。

てもやみねかし。…》 花二)物越しに聞こえたまはむほど、御心につかずはさ(7) [命婦] 《さらば、さりぬべからんをりに、(源氏ガ末摘

思うわけではない。源氏が末摘花を気に入らなければ、言い寄発話者の命婦は、源氏が末摘花に言い寄るのをやめてほしいと(源氏物語、末摘花、二一〇・一三)

は、〈要求〉の例に限られる(富岡宏太 二〇一四)。この点、命令形に助詞ヨ・ヤが下接した「命令形ヨ」・「命令形ヤ」

「命令形カシ」は「命令形」に近い。

# 「命令形カシ」の各用法の特徴

では、「命令形」と「命令形カシ」とには、どのような違い

「命令形カシ」の各用法を精査する。例数を[表二]に挙げがあるのであろうか。

[表二]「命令形カシ」の用法別の例数

る。

| れる。そこでさきに、〈要求〉の例が最も多                   | 76  | 〈要求〉 |
|--|-----|------|
|  | 25  | 〈希求〉 |
| この二つの用法について検討していくこいが、〈希求〉・〈放任〉も、一定数、見ら | 15  | 〈放任〉 |
| 検討していくこ、一定数、見ら                         | 116 | 計    |

### 四・一〈希求〉

とにする。

ず、〈希求〉の例を、行為者が想定できるかどうか、想定

ない。

る。「命令形」の例から検討する。 できる場合に、実現可能性があるか否かという観点で分類す

きるが実現可能性のない例、行為者が想定され実現可能性のあ 命令形」には、行為者が想定できない例、行為者は想定で

る例の三種すべてが見られる。

【行為者が想定できない例

〔小君〕「……。風吹きとほせ」

発話者の小君は「風が吹くこと」を望むが、行為者は想定でき

、源氏物語、

空蝉、八九・一二〉

【行為者が想定されるが実現可能性のない例】

行為者として紫の上が想定されるが、死亡しており、実現可能 ⑨〔源氏〕《ただ、いま一たび、目を見合はせたま~。 〈源氏物語、若菜下、一一八四・一〇〉

【行為者が想定され実現可能性のある例】

性はない。

行為者は紫の上と女三宮とが想定され、今後、両者が親しくな したまへ》と思す。 〔源氏〕《(紫の上ト女三宮トノ)御仲うるはしくて過ぐ 〈源氏物語、若菜上、一〇七六・四〉

命令形カシ

×

る可能性はある。

者が想定できるが実現可能性のない例は見られる。 一方、「命令形カシ」にも、行為者が想定できない例、

行為

【行為者が想定できない例】

(11) 「人」 《とく降りやみねかし》

印には、雨を止ませることのできる行為者が想定できない。

枕草子、二七四段、

四二六・一〇

【行為者が想定できるが、実現可能性のない例】

(12) 〔三の君〕 《(中納言ハ) しばし立ちどまりたまへかし。 〈落窪物語、巻之三、二六七・一〉

り、 しかし、行為者が想定され、実現可能性のある例は見られな 実現可能性はない。

⑫は、行為者に中納言が想定されるが、彼は既に帰った後であ

以上をまとめると、[表三]のようになる。 の用法

[表三]「命令形」と「命令形カシ」との〈希求〉

命令形 想定不可能 実現可能性なし 行為者想定可 実現可能性あり

る例とがある。

− 5 − 中古和文の「命令形カシ」

> 定されても実現可能性がない例のみなのである。 以上のように、「命令形カシ」は行為者が想定されないか、 想

このことは、「命令形カシ」が、「命令形」のように単に実現

とに望むことを示している。 を望むのではなく、発話者の望みが実現しないという前提のも

〈放任〉

現を行為者に任せる例と、ある属性の有無について状況に任せ 次に〈放任〉である。「命令形」の 〈放任〉 には、 事態の実

【事態の実現を行為者に任せる例】

の疑ひはせよ。……」 〔左馬頭→女〕「……。限りと思はば、かくわりなきも 〈源氏物語、帚木、⑷の再掲〉

ち、事態の実現を行為者に任せる例は一例のみである。 る。ただし、源氏物語の散文における「命令形」六二三例のう

「これで最後と思うのなら疑ってもかまわない」という例であ

ものである。 次に、ある属性の有無について状況に任せる例は次のような

【ある属性の有無について状況に任せる例】 〔僧→僧〕「……。(女ガ)物の変化にもあれ。目に見す

げる。

見す、生ける人をかかる雨にうち失はせんは、いみじき 源氏物語、 手習、一九九三・一二〉

〔乳母〕「……。あが君(=浮舟)を取りたてまつらむ、

人にまれ、鬼にまれ、返したてまつれ」

(15)

まわない」という発話である。これも、ある属性を持つことを 構わないとしているだけである。また⑮は、「人でも鬼でもか 態の実現を任せる例ではない。そのような属性を持っていても 似は、「女が獣の化身でもかまわない」という発話であり、事 源氏物語、蜻蛉、一九三四・一一~一二〉

許容しているだけである。

任せる例のみである。 一方、「命令形カシ」の〈放任〉は、 事態の実現を行為者に

【事態の実現を行為者に任せる例。対話者あり】

ばらのやうに。中納言殿の御車ぞ。はやう打てかし」 [中納言の従者→中将の従者]「ことと言へば、大将殿

(16)

落窪物語、巻之二、一七一・一一〉

に委ねているのである。行為者と対話者とが一致しない例も挙 に望んでいるわけではない。事態の実現を行為者(=対話者) 「ぶつけられるものなら、早くぶつけろ」と述べるが、積極的

【事態の実現を行為者に任せる例。対話者なし】

はあらぬや。(女性ガ)おのづから端つ方、局などにゐ たらむときも(生昌ハ用ヲ)言へかし」 〔中宮→清少納言〕「わざと消息し、呼び出づべき事に

〈枕草子、巻六、三八・七〉

lがの発話者は中宮、対話者は清少納言であるが、行為者は生昌

よって、事態の実現を行為者に委ねている点では個と同じであ である。ここでも、「用件を言ってほしい」のではなく、「女性 が局にいるときに、言いたければ言え」というのみである。

第117巻第8号 (2016年)

る。これらの例に共通するのは、「事態の実現が行為者にとっ の一行に車をぶつけることなどできまい、という前提が窺え て困難である」ということを前提とした発話であることであ (6)は、大将の一行を引き合いに出していることから、中将

息で用事を済ませようとしてきた生昌にとって、困難な条件を 局にじっとしているとき、という条件つきである。これも、消 切も、ただ伝えたければ伝えろというのではなく、女性が

(18)

國學院雜誌

〈要求〉

提示している。

命令形カシ」の 〈要求〉 の例は七六例ある。 これらは、 発

を強くせまることはできないであろう。

きないか、 強く迫らない例に、ほぼ限られる。

話者が対話者に向かって、要求内容の実現を強く迫ることが

で

理を強いる例の三種に大きく分けられる。なお、ここでの上 位・下位は、敬語使用の有無を基準とする。発話者が対話者を 発話者上位で対話者に利益のある例、発話者上位で対話者に無 さらに、〈要求〉の例を詳しく分類すると、対話者上位の例、

敬語で待遇する場合、少なくとも言語表現上は、対話者を高く

遇していることになるからである。

【対話者上位の例。対話者に利益あり】 〔女房→姫君〕「……。よき事もあらば、せさせたまへ

位の場合である。五九例と、非常に多く見られる。

それでは具体例を見ていこう。最初に挙げるのは、

対話者上

〈落窪物語、巻之一、九〇・九〉

〔女房→公信〕「いざ、たまへかし。内へ」

(19)

かし

枕草子、九五段、一八九・一〉

しているが、対話者上位の例であり、発話者が要求内容の実現 に誘っている。いずれの例も、 がいいと勧めており、⑭は、女房である清少納言が公信を宮中 は、女房が姫君に対して、よい縁談があれば結婚したほう 対話者に利益のある内容を要求

(23)

さらに、次のような例もある。

(22)

【対話者上位の例。発話者に利益あり】 〔源氏→末摘花〕「今年だに声すこし聞かせたまへかし。

〔源氏→藤壺〕「「見だに向きたまへかし」

〈源氏物語、末摘花、二二九・二〉

〈源氏物語、賢木、三五二・一〉

②は、いつまでも顔を見せてくれない末摘花に対して、源氏が

の発話である。こちらも藤壺に対して敬語が使用された、対話 対話者の末摘花が上位となる例である。⑵は、源氏から藤壺 「せめて声だけでも」と要望する場面である。敬語使用により、

る。

合はなおさら、発話者が強く迫ることはできないであろう。 つづいて、②発話者上位で対話者に利益のある例である。七

得るのは発話者であり、対話者には利益がない。このような場 者上位の例である。これらの例では、事態実現の結果、利益を

【発話者上位で対話者に利益のある例。】

例見られる。

⑵〔女房→男〕「今宵、もし月おもしろくは、

〔匂宮→侍従〕「わがもとにあれかし」

平中物語、

五〇七・一〉

(25)

〈源氏物語、 蜻蛉、一九五一・一〉

> 要求内容を実現することで利益を得るのは、対話者の侍従であ えていた者である。しかし、浮舟は亡くなったと思われてお は、匂宮から侍従への発話である。この侍従は元々、浮舟に仕 容を実現することで利益を得るのは、対話者の男である。 美しい時に来れば女房が仕える女性に会えるので、この要求内 見なされる。22は女房から知り合いの男への発話である。 り、この時点では、侍従は主人がいないことになる。よって、 ②は、ともに敬語不使用例であるから、発話者上位の例と 月の

まいが、発話者には、利益も不利益もないからである。 くせまることはないと考えられる。要求内容が実現しようがし 最後に、発話者上位で対話者に無理を強いる例である。九例 以上のような場合、たとえ発話者上位であっても、 実現を強

【発話者上位で対話者に無理を強いる例】

見られる。

⑵〔女→男〕「なほ、ここに立ち寄れかし」

平中物語、

五二七・一二〉

まに言ひなしてものせよかし」 くまむに咎あるまじきを、そのあらん乳母などにも異ざ 〔源氏→右近〕「……。とざまかうざまにつけて、

こで注目すべきは、24も25も、発話者が対話者に無理を言って 敬語が使用されておらず、利益も対話者にはない。しかし、こ (2)は女から男に、(2)は源氏から右近への発話である。いずれも

源氏物語、

夕顔、一三九・一四〉

いるということである。たとえば凶は、帰ろうとする男に対し

せてほしいということである。こうした発話においては、強く ての発話である。また、⑤は末摘花の許しがなくとも、 対面さ

に、配慮が必要とされる場面に使用されることがほとんどであ 現できなくてもしかたない」という姿勢を、表面上は示す必要 があろう。発話者上位で利益が発話者にある例は、このよう 要求することはしにくいはずである。「無理は承知である」「実

る(室谷有紀子 二〇〇一、川上徳明 二〇〇五)。

第117巻第8号 (2016年)

発話者が対話者に、要求内容の実現を強く迫れないか、迫らな 例が非常に多い。また、発話者上位であっても、利益が対話者 い例に偏るということである。 意味するところを再度述べると、「命令形カシ」の〈要求〉は、 にある例や対話者に無理を強いる場合がほとんどである。 以上のように、「命令形カシ」の〈要求〉は、対話者上位 その . の

國學院雜誌

の例である。 韻文には「命令形カシ」が二例見られるが、いずれも

> 20あはれとて手をゆるせかし生き死にを君にまかするわが 身とならば (源氏物語、 竹河、一四八二·五)

灯恋しくは来ても見よかしちはやぶる神のいさむる道なら 《和泉式部日記、七九・一一》

前者は、発話者の少将が女房に対して大君のもとへの手引き

は、 女、 を頼む歌であり、発話者上位で無理を強いる例である。 対話者は宮であり、対話者上位の例となる。いずれも、 伊勢物語からの引き歌である。ここでの発話者は主人公の

# 「命令形カシ」の意味

文の特徴から逸脱するものではない。

# 五

五・一 「命令形カシ」の意味とは

本節では、用法間の共通点を抽象化し、「命令形カシ」の意

味について考察する。そのために、 カシ」の各用法の特徴を、再度、確認しておこう。 〈希求〉の例は、「命令形」とは異なり、行為者が想定でき とは、発話者が自身の望みを、実現されないという前提の ないか、想定できても実現不可能な例に限られる。 前節まで見てきた「命令形

もとで述べるということを示している。

態の実現を行為者に任せる例に限られる。これらは、 〈放任〉 困難さを前提として、行為者がそれでも望むなら実現し の例には、 ある属性を許容する例は見られず、事 実現

無理を強いる場合がほとんどである。これは、発話者が対 話者上位であっても、 にはほとんど見られない。 〈要求〉の例は、対話者上位の例が非常に多い。 てもよいということを示す。このような例は、「命令形 利益が対話者にある例や、 また、 対話者に 発

考えられる。 三者の共通点から、「命令形カシ」の意味は次のようなものと

話者に要求内容の実現を強く迫れないか、迫らないことを

で、行為者や状況に委ねる」という意味を表す。

(28)は、

と、あぢきなく思す。

(源氏物語、帚木、六八・四)

命令形カシ」は、「事態の実現しない可能性を承知のうえ

以上の抽象化が妥当であるか、検証していく。

行為者が想定され、 であるから、 性のない場合は、 実現は状況に委ねられる。 最初に 〈希求〉である。行為者が想定されない場合、 状況に委ねるしかない。さらに、本稿の仮説は、 事態が実現しない可能性を承知していて当然 実現可能性のある例が存在しないこととも また、行為者が想定され、実現可能 事態の

> 性が十分にある場合には、 符合する。実現しないことを承知で委ねる形式は、 使用しにくいのであろう。 実現の可

でいない」ことを、必ずしも意味しないという点である。

ない可能性を承知で委ねる」ことは、「事態の実現を強く望ん

なお、ここで注意しなければならないのは、「事態の

実現し

28かかれば、北の方、《憎し、とく死ねかし》と思ふ。 見たてまつりてまし」とねぶたげに言ひて顔引き入れつ みそかに言ふ。〔空蝉→小君〕「昼ならましかば、 有様を見たてまつりつる、げにこそめでたかりけれ」と 〔小君→空蝉〕 「廂にぞ大殿籠りぬる。音に聞きつる御 〈落窪物語、巻之四、二八二・一〉 覗きて

る声す。〔小君〕《ねたう、心とどめても問ひ聞けかし》

(29)

放っておけば「夫の死」という事態は、実現の蓋然性が高い。 みを持つ必要はない。しかも、大納言が生きたいと願うにもか 副詞「とく(=早く)」を使用してまで、わざわざ大それた望 納言に対しての、北の方の望みである。大納言の病状は重く、 病床にありながら、昇進を喜び延命の願を立てる夫の大

かわらず、である。夫の死への望みが弱いとは言えないであろ

②では、小君が誘っているにもかかわらず、空蝉は聞く耳

を持たず、顔を引っ込めたのである。行為者が想定され、

-10むが、強くは望んでいない」というのは、自己矛盾であるが、 可能性がない例であるが、望みが弱いとは言えない。「強く望

第117巻第8号(2016年) の望みの大きさを問わないのである。 にありうる。本稿の想定する「命令形カシ」の意味は、 一強く望むが、実現しない可能性も承知で委ねる」ことは十分

発話者

國學院雜誌 ものと考えられる。 とも可能であったが、「命令形カシ」の方が、よりふさわしい いことも重要である。この種の 〈放任〉は「命令形」で表すこ

源氏物語の六○○例以上ある「命令形」には一例しか見られな が、「命令形カシ」一一六例中、一五例見られるのに対して、 ある。また、事態の実現について行為者に委ねる

〈放任〉

の例

次に〈放任〉である。これはまさしく、仮説に合った用法で

は、対話者上位の例や、発話者上位で無理を強いる場面 最後に〈要求〉である。 強く迫ることができない場面という

また、強く迫らない場面というのは、 とは重要である。そうでなければ、無礼にあたるからである。 ない可能性を承知のうえで、行為者や状況に委ねる」という本 なくてもよい事態のはずである。この場合も、「事態の実現し あった。このような場面でも、行為者に委ねる述べ方をするこ 発話者にとって、 実現し

稿の仮説と矛盾しない。

実現

のかという問題についての答えも得られるものと考えられる。 えると、そこからどのようにして、多様な用法が導き出される を承知のうえで、 以上のように、「命令形カシ」が 行為者や状況に委ねる」ことを示すものと考 「事態の実現しない 可能性

# 五・二 「命令形」と「命令形カシ」と

さらにここでは、「命令形」と「命令形カシ」とが類

似

の場

る に、女性のもとへの手引きを依頼する場面で、 ものであることが望ましい。そこで以下では、源氏から下位者 と対話者との関係、要求内容などが、できる限り、 をより一層鮮明にしていく。この際、使用される動詞や発話者 面で使用される場合を検討することで、「命令形カシ」の特徴 が使用された例を検討する。「命令形カシ」を先に挙げる。 (30)るを、 〔源氏→命婦〕「……。 かの御ゆるしなうとも、たばかれかし。……」 いとおぼつかなう心得ぬ心地す 動詞 同じか近 「たばか

摘花の許しがなくても)」会わせてほしいと述べており、 している場面である。ここでは、「かの御許しなうとも 30は源氏から命婦に対して、 末摘花に会わせてくれるよう要求 (=末 かな

源氏物語、末摘花、二一〇・二〉

中古和文の「命令形カシ」 -11 -

> りの無理を強いる場面である。最終的に実現するかどうかにつ 命婦に委ねるという態度で接する必要があろう。

これに対する「命令形」の例は、次のようなものである。 ⑶〔源氏→小君〕「静まりぬなり。入りて、さらば、たば

が、③ほど厳しい条件ではない。人々が寝静まり、女のもとに る場面である。ここも一見、無理を言っているように思える 源氏から小君に対して、空蝉に会わせてくれるよう要求してい かれ 源氏物語、 空蝉、八九・六〉

入りやすくなったうえで、手引きをするように要求しているの

の仮説を補強するものである。 承知のうえで、 この事実も、「命令形カシ」が「事態の実現しない可能性を 行為者や状況に委ねる」ことを表すという本稿

# 五 本稿の議論と先行研究との関係

味を見出す方法は、先行研究ではあまり重視されてこなかった 前節のように、全用法の共通点をもとに「命令形カシ」の意

議論とどのようにかかわるか、見ていこう。 ように思われる。 まず挙げるのは、森野崇(一九九二)である。森野は、 以下で順に先行研究を確認しながら、 本稿の カシ

001)°

やゾカシが心内文に多く使用されることを指摘したうえで、 を押す機能がないことを、示しているのではあるまいか。 これらの現象はいずれも、「かし」に聞き手を指向し、 「かし」の行う確認は、聞き手へ向かうものではなく、む 念

とし、カシが「言表内容の再確認の表示」(同頁)を担うとす る。そのうえで、「命令形カシ」について、

しろ対自的なものだと思われる。

(二六五頁)

「かし」の下接によって、その命令文は、

表現主体が命令

令の正当性を、再度確かめる表現になると考えられる。 なのだ」「~すればよいのだ」といったニュアンスの、 の内容を再確認する文となる。つまり、「確かに~すべき

えでは有効であるが、〈要求〉の説明が困難になると思われる。 と述べる。この説は、 〈希求〉や、〈放任〉の一部を説明するう

(二六八頁)

とはどういうことなのか、またそのようなことがあり得るの か、疑問が残るからである 要求内容の正当性を発話者自身が確かめる文を、対話者に放つ (柴田敏 一九九三、室谷由紀子 二

端緒に、 次に、柴田敏 次のように述べる。 (一九九三) である。 柴田は、 〈希求〉 の例を

いということである。 なっている。これは話し手が事態の実現を望む度合いが低 を借りていても、 カシ命令文(筆者注:「命令形カシ」) 実質は愚痴、不満、 は願望表現のかたち 皮肉といった表現に (二七九頁

カシ命令文では〈待ち望み〉のモダリティが弱い。

この説は、〈放任〉と、〈希求〉〈要求〉の一部とを説明するう (二八四頁)

② 〔少将→帯刀〕 「入れに入れよかし。……」

とすると、〈希求〉〈要求〉の多くの例の説明が困難になる。

しかし、「〈待ち望み〉のモダリティが弱い

第117巻第8号 (2016年)

えで有効である。

〈落窪物語、巻之一、二二・四〉

どうしても姫君に逢いたい少将の発話であり、望みの度合いが

メリットはないからである。 低いとは考えられない。また、望みの度合いが弱 話者を説得するにあたって、望みの度合いが弱いように見せる 述べるという意味だとしても、十分な説明とは思われない。対 無理な要求であるから、最終的な いかのように

働いているのではないかと思われる。

(一三~一四頁)

國學院雜誌

ということであろう。 対照的に、 判断は対話者の帯刀に委ねる言い方をして、配慮を示している 最後に、室谷有紀子(二〇〇一)である。 カシに聞き手指向性のある例も見られるという立場 室谷は、 森野とは

> から、 「命令形カシ」について考察している。

言しようとする、話し手の意図が反映されている。(中略) 〈筆者注:「命令形カシ」は)やんわりとソフトに対象に発

意識されている。命令の対象が別の空間に存在したり、誰 クッションをおいて言うことの策略性が、話し手によって さを和らげようとする言い方の配慮や、 命令の対象がその場に存在する場合には、 強い要請をあえて 言い放ちの傲慢

肉めいた言い方をする場合は特に、対象への意識が大きく 見られるものの、これも対象を想起しての発言である。 する場合はもちろん、目の前の聞き手を意識するから配 の必要性が出てくるわけで、後者も、 を含んでいる。(中略)前者、 か一人に特定しない場合、 不満や愚痴、 命令の対象がその場に存在 ひとり言的な発言が 皮肉のニュアンス 皮

合に問題が生じると思われる。発話場にいない行為者に対し 〔要求〉に関しては、本稿と同様の立場であるが、〈希求〉 ・ずれも、 配慮を示す必要があるのか、疑問が残るからである。 ある用法の特徴を、 直接、 意味と結び付けてい の場

て、

とれていないのである。富岡宏太(二〇一五)は、 る。そのため「命令形カシ」の全用法と意味との間の整合性が 助詞の用法

と意味とを分けて考える必要性を論じている。 るのである。 命令形カシ」という特定の文形式の意味を考える際にも言え 同じことは

## 本稿の結論

本稿では、 i「命令形カシ」は、〈要求〉・〈希求〉・〈放任〉のすべて 次の三点を明らかにした。

の用法を持つ。この点、〈要求〉に限られる「命令形ヨ」 命令形ヤ」とは大きく異なり、「命令形」に近い。

ⅱ「命令形カシ」の〈希求〉は、行為者が想定できない

委ねるという例に限られる。〈要求〉は、 実現の困難さを前提として、行為者がそれでも望むなら か、実現不可能な事態を望む例に限られ、〈放任〉は、 対話者に強く

ⅲ以上の全用法から抽象化すると、「命令形カシ」は、「事 迫れないか、 態の実現しない可能性を承知のうえで、行為者や状況に 強く迫らない例に偏る。

委ねる」という意味を表していると考えられる。

このほか、伊勢物語、大和物語の散文部分には、「命令形カシ」が見ら

1 注

本稿の結論によって説明できない例はない。 ある一例、大和物語に三例、計四例の「命令形カシ」が見られるが れなかったため、除外した。なお、韻文では、伊勢物語に図の原拠で

富岡宏太(二〇一四)は、 の例も見られる。 に限られるとしている。しかし、後述のように、 〈放任〉の例は聞き手 対話者なしの (=対話者) ありの例

厳密には、「命令形ヤ」には〈希求〉の例が一例ある。

3

2

〔人々〕「……。しるく見ゆる風吹けや 〈うつほ物語、内侍のかみ、 他に同様の例が 四

四・九

4 ないことから、例外として処理することができる。 ただし、うつほ物語には、本文に重大な問題がある。

い切れない。しかし、源氏はこれまでに何度も末摘花に語りかけてお であってほしい」と望んでいる。この場合、実現可能性がないとは言 空蝉と話した源氏は、末摘花に対して、「せめてこのくらいの話し相手 次の例は、行為者が想定され、実現可能性のある例に見える。 (3)……、〔源氏〕《かばかりの言ふかひだにあれかし》と、あなた(= 末摘花方)を見やりたまふ。 〈源氏物語、初音、七七三・一一〉

5 〈要求〉のうち、 然性は極めて低く、もはや実現可能性はないに等しい。 次の例だけは、三種いずれにも該当しない。

り、それにもかかわらず、末摘花は話し相手にならないのである。蓋

知のうえで、 能である。ただし、本稿の結論である「事態の実現しない可能性を承 いる。男は身分の高い者ではなく、強く迫っていると考えることも可 この例は、紙に書かれた内容をなかなか読まない男に、再度要求して ③〔女房→男〕「ただ読めかし」〈枕草子、二九四段、四四九・一二〉 行為者や状況に委ねる」という意味を「命令形カシ」に

6 際に事態が実現することはない。どのように望むかという述べ方の問無論、実現可能性がないわけであるから、状況に委ねたところで、実 られる。 認めるなら、女房が品格を示すために婉曲的な言い方をしたとも考え

7 とは少なくない)。本稿では、文脈や使用語彙の観点から、「すぐには することは可能であろうか(現代人であっても、常識から逸脱するこ で望むかという、ある時点の極めて個人的な心情を、常識のみで判断 このように考えても、本稿の仮説には矛盾しない。だが、実現を本気 はいえ夫の死を本気で願っているとは考えにくい」(五頁)と述べる。 室谷有紀子(二〇〇一)は、同じ例を挙げ、「いくら感情が高ぶったと 題と、実際に実現しうるかという事実の問題とは、次元が異なる。 実現されないことを承知で、本気で望んでいる」と解釈する。

### 使用テキスト

うつほ物語→室城秀之ほか『うつほ物語の総合的研究』(勉誠出版 竹取物語、土左日記、平中物語、落窪物語、枕草子、源氏物語、和泉式部 源氏物語→池田亀鑑『源氏物語大成校異篇』(中央公論社) 紫式部日記、堤中納言物語→新編日本古典文学全集(小学館)

富岡宏太(二〇一四)「中古和文における「命令形ヨ」・「命令形ヤ」」『国

研究』七七号(國學院大學国語研究会)

語研究』七八号(國學院大學国語研究会

(二〇一五)「「詠嘆」と対話・独話

-源氏物語の助詞カナ--」

柴田敏(一九九三)「終助詞カシのモダリティ」『小松英雄博士退官記念 川上徳明(二〇〇五)『命令・勧誘表現の体系的研究』おうふう

Н

本語学論集』三省堂

参考文献

# 室谷有紀子(二〇〇一)「「命令形+終助詞カシ」の表現性について」『国語 国文学』四〇集(福井大学) 明治書

森野崇(一九九二)「終助詞「かし」の機能」『日本語学の諸問題